

二中だより

さとく うつくしく たくましく

天童市立第二中学校だより 第8号 令和8年8月21日 文責：校長 五十嵐由美子

手を貸す 見えない手を感じる

始業式 校長の話より（抜粋）

まず始めに、この夏休み中に起きた熊本の地震と千葉の豪雨で命を失われた方々のご冥福をお祈りしたいと思います。こうして学校が避難所になることもなく、ここに集まっている皆さんの元気な姿を見ることができるのは、とても有難く幸せなことなのだと、そして、当たり前の生活がいかに価値のあるものなのかということに改めて実感しています。

この夏休み、市内にある ND ソフトスタジアムでは中体連陸上競技の東北大会がありました。東北6県の代表選手が集まる大きな大会です。二中から出場した選手の皆さんも、大変すばらしい走りを見せました。

大会では、天童・山辺の5つの中学校の140人程の陸上部の皆さんが、大会の補助員を務めました。大会会場や競技場の準備や撤収、選手の誘導や荷物の運搬、審判や表彰の補助などなど、そのきびきびとした仕事ぶりは大変素晴らしいものでした。陸上部のみなさん、ありがとうございました。

その大会の中で、選手たちの姿に心が動かされた場面がありました。

大会最終日、日差しが強く暑い日でした。熱中症対策のため、競技後の選手が休むために、冷房の効いたクールダウン部屋が用意されていました。選手は、スタート前にカバンやシューズや着替えを大きな透明なビニールにまとめて入れています。補助員の皆さんは、その重たい袋をその部屋まで何度も運んでくれました。また、誘導係の補助員の皆さんは、競技直後の力を出し切った選手たちを、競技場からクールダウン部屋まで誘導してきてくれました。

選手たちは皆、競技後に渡された氷の袋で体を冷やしながら、疲れ切った様子でクールダウン部屋にやってきました。8月の炎天下、全力を出し切った選手のみなさんです。息も荒く床に倒れこむ人、タオルに顔をうずめ肩を震わせ悔し涙を流す人、黙々とシューズを履き替えビニールから出したリュックを背負い「ありがとうございました」と一礼し立ち去る人。互いの健闘を称え周りの選手に握手を求める人。そこには、様々な選手の姿がありました。

その中に一人、他の選手に背を向けて壁に向かって座り、ずっとうなだれている選手がいました。すると突然、うっと床に嘔吐したのです。もしみなさんが、そばにいたとしたらどんな行動をとったでしょうか。私が「大丈夫?!」と駆け寄ると同時に、周りにいた他の選手たちが、一斉に動きました。一人はカバンからティッシュを何枚も取り出し床の上にかぶせました。一人は自分の荷物が入っていたビニール袋を掴みさっと口に当ててあげました。一人は自分がもらった氷を首筋に当ててあげ、もう一人は氷で体をさすってあげました。

その選手たちも、全力を出し切り疲れ切っていたはずですが、にもかかわらず、ついさっきまで競い合っていたライバルのピンチに、それぞれが素早く状況を判断し、それぞれが自分にできることを行動に移していました。そのとっさの行動が、あまりにも素早く、適切で、驚き感動しました。具合の悪かった選手も、周りの4人の選手の「手」のお陰で、元気を取り戻しました。

私たちは、日々の生活の中で、いろんな手に助けられ、支えられているのだなあと改めて感じました。手を借りる、手を貸す、手を差し伸べる、手助けする、手当てする。そして、その「手」が実際に見えなくても、その「手」を感じる、感謝することも大切なことだと感じました。

今日から始まる二学期、さまざまな場面で、ぜひ、みなさんの積極的で、温かく、力強い「手」を活躍させてください。ひとりひとりの「手」の力は限られていても、集まれば大きな力になります。共に成長する二学期にしていきたいと思います。

【第65回吹奏楽コンクール山形県大会】 奏 Club（天童一中・二中・山形七中吹奏楽部）銀賞

【第47回東北中学校陸上競技大会】

・男子共通3000m 第19位 ○○○○○

・男子低学年4×100mR 第19位 ○○○○○・○○○○・○○○○○・○○○○(補欠 ○○○・○○○○)

地域で活躍する先輩から学ぶ

全校道徳

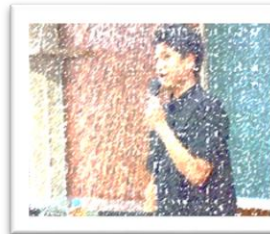
7月22日(水)に、全校生一斉に行う全校道徳の授業を行いました。天童二中の卒業生であり、山口地区にある株式会社「なごみ農産」代表取締役である矢野克さんからお話をいただきました。「なごみ農産」は、日本で唯一、国産飼料で牛を育ておいしい牛肉を生産販売している会社です。コロナ禍でピンチの家業を継ぎ、東京

で大学生の時に HP 作成の仕事をしていた経験

を生かし、牛肉のネット販売を始め、収益を上げ

たことで自信を持ったこと、一切れの肉が口に入るまでとても多くの人に関わっていること、多くの人に牛肉を食べてもらうための工夫、仕事のやりがいや楽しさと苦勞、地域貢献、情報や人とのつながりの大切さ、うまくいっている人の共通点、これから挑戦したいこと等々、様々なお話を伺いました。

講話を受けて各クラスで道徳の授業を行い、考えたことを共有しました。



【講話から学んだこと】

◆地域の行事があったらなるべく参加して貢献したいと思いました。一枚のお肉を作るのに何十人もの人に関わっていると聞いて、一枚一枚のお肉にたくさんの思いが込められているから、給食や家でも「いただきます」「ごちそうさま」を大切にしていきたいと思いました。

◆食べ物の命を大切に、これからはなるべく完食していきたいと思いました。生産者の思いをしっかりと理解していきたいと思いました。

◆農業や畜産業は汚いイメージを持たれることが多いが、やってみるとやりがいがある仕事だと聞いて、都会の企業だけでなく地元の企業も調べてみようと思いました。

◆地元にも良い仕事が沢山あるし、田舎だからという理由で都会に行くのはもったいないと思った。今、めんどくさいと思って後回しにすることで可能性をつぶしてしまうなら、やるべきことをすぐするようにしたいと思った。

◆肉祭りを通して地域を復興させようとする取り組みが私の住む地域で行われていることを知って、とても誇らしいと思った。AI の活用によって働く時間を削減するなど、時代の流れをつかんでそれを上手に使うことが大切だと思った。

◆上手くいく人は後回しにしないということと、怒ってもらえるうちに怒られた方がいいという言葉に、まだ可能性しかない年齢だから、いっぱい挑んで、ぶつかって、怒られて成長していくのが大切なのかと思った。人との関わりは大人でもできるけど、「人とぶつかる」のは今のうちだと。

◆当たり前を当たり前だと思わないことが大切だなと思って、自分にできることは必ず行動で示していきたいと思った。自分は後悔することがとても多いので、講話で聞いたことを活かしていきたいと思いました。怒られた時なども、自分にまだまだ改善点があることだから、前向きに考えていきたいと思いました。